

山陰仏社会報



Sō-Sō

[壮創]

第21号

山陰教区仏教壮年会連盟会報・第21号

【編集・発行】山陰教区仏教壮年会連盟事務局
〒690-0002 松江市大正町443-1(本願寺山陰教堂内)
電話(0852)21-4747 FAX(0852)27-8351

山陰教区仏教壮年会連盟 理事長に就任して

山陰教区仏教壮年会連盟理事長

出雲組 成福寺仏教壮年会 武田英教



昨年7月の総会より、山陰教区仏教壮年会連盟の理事長をさせていただくことになりました。武田英教と申します。所属は出雲組 雲南市大東町前原にございます。成福寺です。不慣れではありますがよろしくお願ひします。

教区内の関係者の皆様には、日頃より仏教壮年会連盟の活動にご理解とご協力をいただいておりますこと、深く感謝申し上げます。

令和6年には年明け早々に、石川県能登半島付近を震源とする大きな地震がありました。甚大な被害が発生し多くの方が避難生活を余儀なくされています。寺院やご門徒も例外ではなく、不安の中で生活をされている姿を見るにつけ心が痛みます。

さて、新型コロナウイルス感染症も感染法上の5類に移行し、中止が続いております。鳥取、出雲、石見でのブロック研修会も、ご担当頂いた各組連盟・単位会の役員の皆様、ご講師の皆様のご協力のもと、無事に開催することができました。このブロック研修会を通じて、私自身も聴聞をさせていただくとともに、それぞれの地域の課題を感じることができたように思います。

共通する課題としては、過疎化と少子高齢化ではないでしょうか。役員も高齢化し、広域での役員を引き受けてくださる方も少なくなってきたように思います。

また、他の教化団体と役員を兼務するなど、運動が特定の方に集中し、過度な負担とならないようにする必要もあります。そうした中で、それぞれの寺院の実情に応じた仏教壮年会の形も模索していく必要があるように感じています。

最後に、仏教壮年会連盟の綱領には、「ともにお念仏申す朋

友の輪を上げ、心豊かに生きる社会の実現をめざします」とあります。

縁のあるご門徒への仏教壮年会加入をお誘いいただき、ともに朋友の輪を上げる取り組みについて、皆様と一緒に進めていきたいと考えております。

どうか、皆様のご協力をお願い申しあげ、ご挨拶とさせていただきます。

2023(令和5)年度

山陰教区仏教壮年会連盟総会・研修会報告

山陰教区仏教壮年会連盟副理事長

鳥取因幡 浄徳寺仏教壮年会 永原初雄

令和5年7月1日(土)に開催された山陰教区仏教壮年会連盟総会・研修会について報告いたします。

本年も新型コロナウイルス感染症を考慮し開催時間短縮のため、午後からの開催となりました。

会場は本願寺山陰教堂教化センター研修室、75名の参加での開催となりました。

総会では2022(令和4)年度の事業報告・決算の承認、2023(令和5)年度の事業計画及び予算について協議し、承認をいただきました。

続いて役員任期満了につき、新役員について協議いたしました。教区仏教壮年会連盟の規約に則り、理事会にて選出された新役員を、総会の承認を得て新体制が発足となりました。

研修会では、本願寺派布教使「武田正知師(上方講談協会の旭堂南雲氏)」を講師に迎え、「物語で伝える仏さまと一緒の人生」というテーマでお話をいただきました。

普段とは違う講話を交えたご講話は、予定された時間を短く感じることができました。

本総会、研修会には、連盟に加入されている83単位会のうち、38単位会からの出席でしたが、1ヶ寺1名でも多くの方に出席いただけるよう、皆様からのお声がけをいただき、また、新体制へのご指導、ご協力のほどよろしくお願ひ申しあげます。



親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要記念 「第24回 全国仏教壮年大会」に 参加して

出雲南組 福泉坊仏教育壮年会 会長 土井豆勝磨

4月15日・16日に京都市内のホテルで行われました第24回全国仏教壮年大会に山陰教区から15名で参加して参りました。そして本願寺御影堂で行われた親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要のご勝縁にも遇わせていただきました。

法要には大会参加者はもちろん全国から多くの門信徒の皆様が参加され、あの広い御影堂は満堂の賑わいでした。50年の節目を祝う尊前の莊嚴は特別で、鮮やかな刺繍の打敷や金色の蠟燭、13種類の色の餅や饅頭を高く積みお供えしてあり、花を供える作法など普段の参拝時とはまったく違う素晴らしい法要でした。

本大会は、ちょうど50年前の記念法要の際に行われた「門信徒会運動推進全国仏教壮年大会」が始まりで、新型コロナウイルス感染症の影響で3年前に備後教区で開催予定の全国大会が中止となり6年ぶりの開催でした。

15日の懇親会は、600名余りが久々に一堂に会して行われ、全国の朋友の皆様と交流することが出来ました。そして、舞妓さんによる京舞や宗門校の相愛大学のサクソフオン・アンサンブルの皆様演奏も素晴らしいものでした。

16日の大会は「聖人のみ教えつないでお念仏申す 朋友の輪」をテーマに開催されました。全国の31教区と沖繩

特区の連盟旗が入場し、演壇横に飾られた中、開会行事へと進みました。法話では連盟講師の足利一之先生が「俱くわい一いっ処じょ」お寺はみんなのよるところ」と題し、お寺と仏教を含む教化団体が共に協力して、お寺が全ての世代にとつて居心地よい場所となるように、特に核となる仏教が朋友の輪を一層広げる活動が大切であると説かれ、一回更なる活動を確認いたしました。

続いて、龍谷大学の入澤崇学長が「本願をよりどころとする生き方」と題して記念講演されました。

15日の慶讃法要は、残念ながら土砂降りの雨で大会関係者の皆様のご苦労は大変だったかと思いますが、大会会場は京都駅ビル内のホテルで参加者には大変利便性もよく、細やかな心遣いに感謝する次第でした。様々な場面でオンライン会議が当たり前になった昨今ですが、やはりこうした対面での仏教全国大会への参加は、色々な独自の活動をされている朋友に接することができ、モチベーションの向上にもつながりますし、何より親鸞聖人のみ教えを依りどころとしてなお一層ともにお念仏申す朋友の輪を拡げ、共に歩んでいきたいと思わせていただきました。

今後このような大会に多くの皆様に参加され、全国の朋友の皆様と絆を深めていただきたいと思います。

鳥取ブロック研修会に参加して

鳥取因幡組 隆建寺仏教壮年会

中村 正志

2023(令和5)年度山陰教区仏教壮年会連盟鳥取ブロック研修会が9月2日(土)に、鳥取因幡組隆建寺を会所に開催されました。

新型コロナウイルス感染症により、4年ぶりの開催となりました。

講師に鳥取因幡組西法寺住職、山名大朗師をお迎えし、「お寺を心の居場所、拠り所に」というテーマで講義をいただきました。ブロック内より33名の会員が参加いたしました。

お寺を地域に開かれたものにし、地域に貢献する取り組みを意識的にすすめる。「お念仏に出会えてよかった」と感じてくださる方を一人でも多く増やすといった内容で、ご講師の経験やお寺での活動を踏まえながら講義が行われました。

現在、全国的に仏社会員が減少しています。私は行事がある際には知り合いに声をかけてきましたが、反応は薄く、新規会員もなかなか見つかからないのが現状であります。

仏壮創立以来40年以上経ちましたが、これから先、会を存続していけるのかと心配しています。

そのような状況ですが、私は仏教壮年会がお寺の活動に必要不可欠だと考えています。

この度の研修会ではご講師より様々なお話を聞かせていただき、良い刺激となりました。

綱領にありますように、「お念仏申す朋友の輪を拡げ」これからも仏壮活動が続けていこうと考えています。

最後に、このたびは、4年ぶりの開催でしたが、参加していただいた皆様に御礼を申しあげます。

合掌

出雲ブロック研修会に参加して

神門組 願楽寺龍松会

伊藤 貴博

2023(令和5)年度山陰教区仏教壮年会連盟出雲ブロック研修会が10月22日(日)に、出雲市ラピタ寿輝の間を会所に、21ヶ寺70名の参加で開催されました。

神門組の須山宏幸理事の司会進行のもと、開会式では勤行、仏教壮年会綱領の唱和の後、晨利信山陰教区仏教壮年会連盟会長にご挨拶をいただきました。

「阿弥陀仏の願いと私」と題して、出雲組宗玄寺ご住職の藤森観海師にご講義をいただきました。

少子高齢化・高度情報化・多様性の時代の中にあつて、高齢化する仏社会員でもあるが、一人一人が人生を振り返り、真実の生き方に気づくことの大切さをお話しいただきました。

閉会式では山陰教区仏教壮年会連盟の武田英教理事長より挨拶をいただいた後、恩徳讃を斉唱し全日程を終了いたしました。

近年新型コロナウイルス感染症の影響で様々な行事が縮小・中止されました。この度の研修会を機に自坊の諸行事への積極的参加と、常に自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞く報恩感謝の日暮らしの大切さ思いを新たにしたい一日となりました。

石見ブロック研修会に参加して

江津組 光善寺

長井 正樹

2023(令和5)年度山陰教区仏教壮年会連盟石見ブロック研修会が12月16日(土)、江津市のパレットごうつを会場にて、42名の参加で開催されました。

ご講師は山口教区浄土寺住職の萩隆宣師より『礼拝のお育て』お仏壇からお育ていただく』をテーマにご法話をいただきました。

先生の姉が3歳の娘を残して亡くなられた。人生は無常と感じられた祖父や祖母は、決して見捨てることなく、救いとしてくださる仏さまがおられるお仏壇に礼拝して、その娘を育てたと話されました。

この娑婆世界に心安らぐ場所はありません。なぜなら、私たちは、他の「いのち(他人を傷つけ、牛や魚の命)」を奪って罪をつくりながら、生きざるをえないからです。本当の居場所は、すべての「いのち」が安心できるお浄土であると話されました。

そして浄土和讃にある讃題を丁寧に解説されました。逃げる私を追いかけてまでも、私のお浄土行きを見守り続け、導き続けておられる仏さまのはたらき(撰取不捨)については、お念仏しかありません。そして嬉しい時も悲しい時も、仏さまのお慈悲に抱かれて生活していることに気づく(お育てをいただく)には、お聴聞しかありません。ご法話をこのように私は受け取りました。

また門信徒の心得として、①よりどころ…弥陀弘誓・阿弥陀如来の願い。②居場所…お浄土。③学び…善知識。④目的…往生成仏。⑤健康…生老病死。⑥社会との関わり…心豊かに生きる社会。

⑦自己実現…自分が何者か知る。と具体的に示されました。

講義の休憩時には、江津市を中心に活動をしているダンスサークルのパフォーマンスドールによるダンスパフォーマンスもあり、有意義な研修会でした。

これからも、お仏壇を家庭の中心として、報恩感謝のお念仏をさせていただきます。

新役員名簿

組名	寺院名	氏名	役職
鳥取因幡組	浄徳寺	永原初雄	副理事長
鳥取伯耆組	本巖寺	佐藤孝志	監 事
松江組	勝願寺	祖田純一	常任理事
出雲組	成福寺	武田英教	理 事 長
神門組	正蓮寺	須山宏幸	
出雲南組	善福寺	石原 毅	監 事
飯南組	一念寺	伊藤 隆	
大田東組	西楽寺	齊藤 寛	副理事長
大田中組	浄円寺	藤本昭文	
大田西組	龍藏寺	眞野明政	常任理事
佐波組		—	
川本組	正安寺	長田 広	
千須賀組		—	
邑智東組	円浄坊	岩戸秀幸	
邑智西組		—	
江津組	長玄寺	森田勝秋	常任理事
浜田組	覚永寺	岡田秋良	
三隅組		—	
益田組		—	
鹿足組		—	

2023(令和5)年度
 仏教壮年会連盟
 中央研修会に参加して
 神門組正蓮寺仏教壮年会
 須山宏幸

2024 (令和6) 年2月10日・11日の2日間にわたり開催された仏教壮年会連盟中央研修会に参加いたしました。

この度は「仏教壮年会の活動とは」いま一度、仏教壮年会綱領に学ぶ」をテーマに研修が行われました。

まずご講師よりご法話と問題提起が行われました。私は浄土真宗門徒ではあるが、仏教壮年会連盟綱領や浄土真宗の生活信条にそった日々を送れるかと問われれば返す言葉なく、難題を突き付けられた思いでした。

続いて、班別での話し合い法座では各寺院での活動状況、問題点等の発表をしながら進められていきましたが、

どの仏社会も高齢化、新規会員がいないう等様の悩みを抱えていました。全体発表では仏社会を活性化させるための取り組みや、若い世代へのアプローチの方法を聞くことができました。

できないとあきらめるのは簡単である。どうしたら出来るかを考察するのはむずかしい事だが、様々な事例を参考にし、他の教化団体と協力し、地域にあったことを加味すれば何か打開策につながるのではと感じました。

令和7年度に神門組仏教壮年会は40周年を迎えます。現在10ヶ寺での活動ですが、1ヶ寺でも多く入会していただき、朋友の輪を拡げていけたらと思います。

この度の中央研修会開催に携わった方々に感謝し、この経験を組内、教区内での活動の活性化につなげていきたいと思えます。

み教えに聞き、ともに念仏申す朋友の輪を拡げたいと心新たにしたい研修会でした。

シリーズ 仏社紹介⑨

飯南組明眼寺慈光会 福間美登

明眼寺仏教壮年会 慈光会では、毎年仏社員、仏婦会員、門徒で「念仏奉仕団」へ上山しており、会長である私は世話係をしています。

慈光会は、令和5年にて22回目の念仏奉仕団となりました。お寺での活動としては「境内の草刈、仏具磨き、御正忌法要」等の活動を行っています。

10月の報恩講前と12月の2度、明眼寺の大イチョウの落ち葉の清掃をはじめました。

また、教区実践運動の活動にならない、新たに「フードバンク事業」の取り組みへの協力をしております。

貧困問題の解決に少しでも協力でき、社会貢献ができればとの思いからです。現在の課題は、会員数の減少

と高齢化です。

寺に所属する会といいますが、堅い会と敬遠されがちですが、「楽しい会ですよ！」を口実に勧誘を行っています。

コロナ禍で活動しにくく、人との距離が離れてしまった時期においても奉仕作業や懇親会を継続し開催してきました。現在の慈光会は25名の会員で活動しております。これからも会員一同で「活動を継続していく」ことが必要だと感じています。



境内清掃活動

あ と が き

能登半島地震、羽田空港での飛行機事故と、令和6年は大変に悲惨な幕開けとなりました。亡くなられた方、被災された方々に心よりお悔やみ、お見舞いを申しあげます。毎日テレビに映し出される現地の状況を見て、迅速な復興を願うばかりです。

近年、地震、津波、大雨による洪水など日本各地で自然災害が多発しています。災害は予測はできても行動に移さなければ

回避ができないものなので、日ごろから命を守るための行動をすぐにとれるよう意識をし、訓練をしていくしかありません。世界を見渡すと、戦争を続けている国があります。あらゆる詭弁を用いて自分たちを正当化し、殺戮を繰り返しています。

このような時代だからこそ仏法がひるまり、私たち一人ひとりが自己中心のこころを反省し、同じいのちを生き延びる相手の存在に気づいていければと思います。

(大田西組 龍藏寺仏教壮年会 眞野明政)